

はじめに

1976年、社会福祉法人真生会創立者宮崎晋は、当時の母子福祉の充実を目指して、学術的な側面からもこの問題に光を当てようと、「白百合社会福祉研究所」を設立し、1978年より『母子研究』を編纂するに至りました。

「白百合社会福祉研究所」は、その後2019年に「白百合心理・社会福祉研究所」に改称され、ますます多様化する子どもの福祉のニーズに応じるための活動を展開しています。これまでの活動の内容については、本誌の資料欄にまとめましたので、ご関心のある方は、どうぞご参照ください。

そしてこの度、白百合心理・社会福祉研究所では、1978年から2002年まで毎年発刊されてきた『母子研究』から20年を経て、新たな時代の児童福祉の増進を願い、本誌『子どもの福祉と心理』をより発刊する運びとなりました。

『母子研究』の編纂時代からのご縁で、繁多進運営委員に早々に祝辞をいただいていたにもかかわらず、新型コロナウイルスによるパンデミックとなり、母体となる真生会の運営にも相当な困難が生じました。この間、編集作業が途切れがちとなり、多くの方々にご心配をおかけすることとなりました。

このような中で、運営委員の方々をはじめ、様々な形で本誌のスタートにご助言、ご助力をいただきながら、ささやかな一歩を踏み出すことができましたことに、感謝申し上げます。

今後も、現場の様々な意見も反映させながら、幅広い論考・研究、そして研究所の活動を定期的に掲載していく所存です。

引き続き皆様のご理解、ご助力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和6年3月

白百合心理・社会福祉研究所 所長
青木紀久代